

◆ 長谷川 權選

亡き妻とまた逢ふための昼寝かな

(春日部市) 池田 桐人

八月や地球人みな杖を突き

(福岡市) 釋 鯛硯

存へて今日も明るし屑金魚

(西宮市) 古山 丈司

太陽の子分麦藁帽子かな

(稻城市) 日原 正彦

端居してこの世のことを斜め読み

(越谷市) 安居院半樹

一年をかけたうな重一瞬に

(福島県伊達市) 佐藤 茂

けふも畑詠ひたくなる草いきれ

(神奈川県二宮町) 織田 光曠

命かけ買物にゆく酷暑かな

(横浜市) 我妻 幸男

びつしりと黴のおかげの鯉節

(和歌山市) 尹 敏哲

七月や巴を制す安青錦

(厚木市) 飯塚 智明

【評】一席。こんな昼寝もある。八十億の人々の中に。二席。街を歩けば杖をつく人、キャリーバッグを引きずる人。二十一世紀の地球人の姿。三席。金魚すくいの金魚か。いたって元気。十句目。左足の痛みに十五日間も耐えて。じつに立派。

◆ 大串 章選

円周率めきし妄想熱帯夜

(大阪市) 平谷 茹美

剥製の獣の咆ゆる猛暑かな

(川越市) 大野有之介

少女らの白服まぶし原爆忌

(長崎県波佐見町) 川辺 酸模

真夜中の金魚眠らず瞬かず

(奈良市) 田村 英一

予定なきことが予定や大昼寝

(広島市) 谷脇 篤

雄叫びに野外演奏始まりぬ

(相馬市) 根岸 浩一

夏の山囲む我が町港町

(長崎市) 徳永 桂子

原爆忌ゲリラ豪雨の海の家

(佐渡市) 野田 悟

空蟬の何も掴まず地に転げ

(福岡市) 三十田 燦

夏草の不自由と言ふ自由かな

(姫路市) 田辺富士雄

【評】第1句。「円周率めきし」が言い得て妙。正に熱帯夜ならではの「妄想」。第2句。「剥製の獣」が声高く鳴くとは桁違いの暑さ。「猛暑」怖ろし。第3句。健やかな「少女らの白服」。再び戦争をしてはならない、原爆を投下してはならない。